

Dialog

世田谷区民合唱団会報



Vol.160

2022-2

2022.11.9日

待ち望んだ定期演奏会が開催されました



2022年10月9日（日）に烏山区民会館ホールにて第30回定期演奏会が開催されました。コロナ禍で練習もままならず、世田谷区民会館の建て替えのため会場がいつもとは違うなど、困難を乗り越えての定演となりました。それでも成果を十二分に上げて素晴らしい合唱をお届けできたのではないのでしょうか。この経験を糧として更なる飛躍を目指していきましょう。

委員長のご挨拶

委員長 神保 仁士

昨年の11月3日に試行的に定期練習を再開して一年になろうとしています。最初は人数を制限するためにパート練習形式とし、徐々にパートの組み合わせを増やして、12月15日にはようやく全パートが揃ってのアンサンブル練習にこぎつけました。しかしながらこの練習も長くは続かず、年明けの1月12日の練習を最後に残念ながら、再び中断に追い込まれてしまいました。そして定期練習が再度再開されたのが2022年の4月6日で、現在に至ってます。

新型コロナによる感染拡大後は定期演奏会が二回中止になり、総会も書面で行わざるを得ない状態でした。当然ながら役員の交代も出来ず、異例ながら継続で引き受けて頂くしかありませんでした。拡大運営委員会はこのような状況でも運営業務を遂行するため毎月一回行っていました。感染状況に応じて会議の形式をメールにするか、集まっての会議形式にするか、適時意見を集約しながらの状態でした。坂本音楽監督とも適時、正・副委員長、演奏委員長が参加してオンライン会議によりご意見を伺い、調整を図っていました。

委員会の主な議題は練習再開時期とその形式・対策、運営維持費（団費等）、練習休止期間の運営体制、先生方への謝礼等、でした。感染状況、医療体制、社会活動状況、団員の意向、練習会場の使用制限等を勘案し、区とも協議・調整を重ね、坂本音楽監督のご意見を伺いながらの委員会の議論は、日々変わる感染状況の変化もあり思い描く通りには進みませんでした。

自分の中での基本方針は、「団員が再び集う場所の確保」と「早期に安全な再開」の二つでした。この方針は委員会で表明・確認しているわけではありませんが、これを目標に努めて頂いたと思っております。団の活動を1年程度の長期間に亘って休止することも選択肢の一つにありましたし、逆に活動を中断せずに継続し、自己責任による練習参加も考えられました。しかしながらこれらの方策は前述した基本方針とは異なった対応になると考え、ご存じのようにほぼ一ヶ月単位で皆さんに練習再開・中断についてのお知らせを発信することになりました。この対応は団の状況を逐次お知らせ出来た反面、緊急連絡網に携わって頂いた皆様には大変なお手数を煩わせ、時間の浪費を強いることになってしまいました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。「有難う御座いました」

4月からの練習再開に当たっては委員の皆様の努力により感染防止対策を構築し、体制を整えて臨みました。感染や濃厚接触者扱いになってしまった方もいましたが、練習活動での感染は確認されておらず、皆様方のご協力を頂いて今日まで大きな問題もなく活動を継続出来ています。

当初の二本柱の基本方針は何とか達成出来たと思っています。次の目標は三年ぶりの定期総会と定期演奏会の開催、そして名曲コンサートの参加であり、更に年間を通して団の活動をコロナ前に戻すことです。総会は例年の開催時期から二カ月余り遅れて6月末に行われました。多くの皆様方が揃って議事に参加して頂いたことは、団の活動が今後も継続されることを予感し、これまで委員会として取り組んで来た事が最善ではないにしても、大きな間違いではなかったことを確信しました。

定期演奏会は団はもちろん皆さんにとっても大変重要なイベントです。コロナ禍を乗り越えて開催できる三年ぶりの演奏会であり、このような晴れの舞台を多くの制約を抱えた中で、安全に、混乱なく、予定通り円滑に進める事が求められ、どのような計画と対策を施すべきか、委員会で十分な議論を重ねました。ほぼ半数の役員が交代していましたが、各業務での引継ぎも円滑に行われ、特に旧役員の皆様からはそれまでの感染対策における考え方を十分にお伝えいただいたご様子で、新年度の拡大運営委員会でも円滑に定期演奏会の対策会議に入れました。区や会館担当者との調整・協議を幾度も重ね、音楽監督のご意見を伺いながら、従来とは異なった新たな対策を施しながらも、過去の経験も加味して当日を迎える事が出来ました。各御担当者の懸命な努力により、準備は万全に整いました。心配事は何もありませんでしたが、私自身は予定通り行われる事に執着することは考えませんでした。予定通りに事が運ばなくて当たり前、混乱が生じても致し方ない。その場で最善と思われる行動をする、と肝に命じて臨みました。結果は皆さんがご存じの通りです。私から申し上げることは何もありません。ただ一言、「不十分な環境にもかかわらずご協力を頂きまして誠にありがとうございました。感謝申し上げます」

8月初旬にかけての新規感染者の増加時には練習の休止を考えました。この時期に休止することは定演を断念することに繋がります。一時的に休止して早期に再開し、名曲に向けて練習を再開する方向に舵を切るべきか、判断に悩みました。休止しても早期再開の補償は何処にもありません。結果的には休止せずに定期練習は継続されましたが、その判断の大きな理由は皆さんの練習出席状況でした。先生方や関係役員のご意見を伺いながらも、皆さんの練習参加率がほとんど変わらなかったことが私の背中を強く又大きく押してくれたことは事実です。今更言うまでもないことですが、団の活動を支えているのは個々の団員のお力です。今回三年ぶりの定期演奏会を開催し、無事に混乱なく終了できたのも皆様方の支えがあつてのことです。

全ての団員と共に、これからも合唱の楽しみを共有したいと思います。

第 30 回定期演奏会を終えて

音楽監督 坂本 秀明



世田谷区民合唱団の皆様、本当にお疲れさまでした。コロナ禍の失われた 2 年半があったにもかかわらず、本番は、今できる最大限の演奏ができたと思っております。これもひとえに運営委員長はじめ、スタッフの皆さん、そして団員ひとりひとりの努力のたまものだと思います。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、第 1 ステージのドイツ・クイエムですが、当団は奇しくも 20 年前に、今回と同じ 1 ～ 3 楽章を初演しています。このような不思議なめぐりあわせの中、ブラームスの神への思いが結集されたこの作品の神髄に迫ることができたと思っております。最初の出だしの “selig” の “s” の子音が「早めに長めに」決まったことが何よりうれしく、この演奏会の成功を確信いたしました。

当団は、世田谷に縁のある方は誰でも入団でき、年に一度の定演、そしてオーケストラ付き合唱曲を歌えるという大変恵まれた合唱団です。しかしながら、難曲もつきものです。特に今回のブラームスは音取りにも苦勞されたことと思います。休団中にホームページに掲載させていただきました全パートの音取り動画を皆様が活用くださり、また、パート別早出練習に真剣に取り組んでいただき、日々の努力が実を結び、本番を迎えられたことに幸せを感じると同時にエネルギーもいただきました。第 2 ステージのほほえみは、今回プログラムに歌詞カードがなかったにもかかわらず、言葉がはっきりとお客様に伝わり、タイトル通りほほえみを誘うことができたと思います。第 3 ステージのオペラは、最後の力を振り絞って楽しく歌えていました。

これからも皆さんが、「合唱が楽しくてしょうがない」と思ってくくださるような団をめざして練習を進めてまいりたいと思いますので、何卒ご協力の程よろしく願いいたします。

演奏会について

杉山 範雄



先日の 3 年ぶりの演奏会、本当にお疲れ様でございました。熱い情熱と温かなお人柄で全体をまとめあげてくださった坂本先生、素晴らしい音楽性と多彩な音色で合唱を盛り上げてくださったピアニスト西谷先生、尾島先生、ご一緒できて光栄でございました。団員の皆様の演奏も『ミューザの神が下りてきた』かのように、本番は練習時よりも断然良い演奏ができましたね。コロナ禍での限られた時間の中で、オペラやドイツ・レクイエムのような難易度の高い曲をこなしていく事は本当に大変だったと思います。緊急事態宣言や蔓延防止等によって会場が使えず、リアル練習ができない期間には、オンライン・ボイトレの実施や、自宅練習用の音取り動画全パート作成など、何とか団の活動を継続

させていこうと、坂本先生をはじめ、役員の皆さんの一方ならぬご尽力に対し、心より敬意を表します。

今回の演奏会は私にとって『茨の道』でした。新型コロナウイルスの蔓延による活動休止、再開しては感染者増加でまた休止…を繰り返し、やっと継続的に練習ができるようになって『いよいよ仕上げ』の時にコロナに感染、通常練習のみならず特別練習まで参加することができなくなり、先生方、団員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたこと、この場をお借りしまして深くお詫び申し上げます。

今回の演奏会を通して、継続した練習がどれだけ大切か皆様も骨身にしみたことと思います。一回一回の練習を大切に、練習の積み上げが出来るよう、今後の稽古にこころしてかかりましょう。

嵐田 美穂

この度は定期演奏会のご盛会誠にありがとうございます！定期演奏会に向けてまずは曲を仕上げなければいけなかったため、中々ヴォイトレに伺えずとても残念でしたが、演奏会に向けてお一人お一人が、音楽に真摯に向き合ってきた成果が感じられて、とても充実した時間を共有できました。聴きごたえのあるプログラム、短期間での準備は大変だったかと思いますが、いち観客として、楽しませていただきました。

ドイツレクイエムでは美しく格式ある歌唱、ほほえみでは温かなエネルギー溢れる歌唱と、各曲のスタイルに合わせて、歌い分けができていてとても素晴らしかったです。指揮者の先生方のご指導をみなさんが受けとめ消化し、それぞれの良さが表現されていました。

私からの次回に向けてのアドバイスとしては、ホール全体に声やエネルギーを届ける意識があると、更に素敵になるかと思います。大所帯で、練習環境にもとても恵まれた団体ですので、その環境を存分にいかせるよう、また次回の本番に向けてしっかり準備して参りましょう！

曲の準備も進んで、発声強化段階に行きましたら、少しでも皆様のお役に立てればと思っております。それまでは是非思い出した時に巻き舌のトレーニングなどもやってみてくださいね！それでは、また皆様とご一緒できますこと楽しみにしております♪



第 30 回定期演奏会を終えて

ピアニスト 西谷 幸子



第 30 回定期演奏会を無事に、また成功裏に終了されましたこと、心よりお祝い申し上げます。私は初めて定演に伴奏者として舞台上で演奏することができ、運営委員長はじめ、スタッフの方々、団員の皆様に支えていただき、大変幸せな時間を持つことができました。

今まで日常生活の一部として毎週水曜日の練習に参加され、定演も年に一度きちんと開催されていましたが、この空白の 2 年間は皆様にとりまして歯がゆい期間だったと存じます。しかし、その 2 年間を吹き飛ばしてしまうような緊張感の中での集中力あふれる演奏だったと感じました。

合唱に向き合ったピアノの役目は何か、毎回の練習に自分なりに課題を設定して取り組んでまいりました。自分が歌う立場だったらどうすればよいかなど試行錯誤の繰り返しでした。そのような中、ふと学生時代を思い出したのですが、ウィーン留学中に大学の必修科目に「合唱」がありました。2 年間偶然ですが、毎週水曜日の 18 時~20 時に授業に参加しないと卒業単位が取れませんでしたので、必死で通いました。1 年目の定期演奏会はウィーン楽友協会大ホールで、2 年目はウィーン・コンツェルトハウスでブルックナーなどの宗教曲のアルトパートをか細い声で歌ったことを思い出しました。アルトパートは本当に難しかった記憶があります。そんなことを思いながらのドイツ・レクイエムを皆様の混声四部の美しいハーモニーとピアノも連弾の厚みのある響きがきれいに混ざり合って、会場いっぱいに音が広がり観客の方々に満足していただけたのではないのでしょうか。

公演の前々日は 88 年ぶりの寒い一日だったそうですが、当日は心地よい気候となり数か月間にわたる練習が実を結んだように感じられた一日となりました。貴重な体験をさせていただきましたことに心から感謝申し上げます。

ピアニスト 尾島 志穂



2019 年の秋に初めて世田谷区民合唱団にお邪魔して、実はもう 3 年になります。しかし 3 年という年月が経ったというのに、私にとって、皆さまと演奏会の舞台をご一緒するのは初めての事でした。その間には、突然の第九演奏会中止から始まり、長きに渡った活動自粛がありました。合唱という特性上なかなか踏み出せない事情もあり、誰もが苦しい気持ちを抱えていたのではないかと思います。

練習の再開時には、皆さまの声のパワーに元気をいただいた事を覚えています。本番の演奏はさらに力強いもので、ピアニストとして音楽と一緒に共有できたことをとても幸せに感じました。いつかの練習時に、ピアノの音楽とアンサンブルをしてください

とご指導いただいた事がありましたが、本番ではまさにそのアンサンブルを感じた瞬間があり、思わずにんまりしてしまいました♡

またすぐ次に向けてドイツレクイエムの練習が始まっているところですが、終曲まで到達した時にどんな気持ちになれるのかを楽しみにしながら、私も練習に参加したいと思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

あらためまして、演奏会の成功に向けて隅々まで心配りをしてくださった運営委員会の皆さま、共演の先生方・団員の皆さま、ありがとうございました。



10月8日（土）ゲネプロの様子



皆さん準備万端です

「演奏会を終えて」

S52 松永 秀子

『良かったですよ！』 お客様の拍手を後に壇上から降りてロビーに出ると、他の音楽活動をしている仲間に会いました。彼女は今回の演奏会を聞いてから入団を決めたいと話していましたが、沢山のお褒めの言葉をもらい、春には一緒に歌えそうです。

今回の演奏曲は、合唱団の歴史を感じる選曲で、ドイツレクイエムは、今回2回目で新たな気持ちで歌いました。曲集「ほほえみ」は、詩も曲も美しく、もう一度挑戦したい曲となりました。オペラ3曲も過去に暗譜で歌った事もあり楽しかったです。

世界中を震撼させたコロナウイルスの為に、演奏会や練習の中止が続きましたが、今回無事に演奏会ができた喜びと感謝の気持ちで心が満たされています。

坂本先生、杉山先生、厳しい中にも優しいお心で指導して頂き有難うございました。杉山先生のバリトン、心に沁みました。

ピアニストの先生方、綺麗な音色で素晴らしい伴奏をして頂き有難うございました。

又、役員の皆様、大変な状況の中、きめ細やかな対応をして頂き励みになりました。区民合唱団は、指導者に恵まれ、世田谷区の恩恵も受けられて、幸せな合唱団です。これからも、多くの友人達と共に大好きな音楽の世界に身を置き、健康で歌える日まで、頑張りたいと思います。

『定期演奏会を終えて』

S37 立石 眞弓

最終曲が終わり観客の大きな拍手に会場が包まれた時は、安堵と共に3年ぶりの定演開催に感慨胸に迫りました。思えば、開催を目前に控えていた第九の中止から、2年半に余る月日が経ち、これまで不安に駆られながらもこの日を迎えられることは、運営委員の皆様のご尽力の賜物と感謝致します。コロナ禍での運営にはさぞかし骨を折られたであろうと思います。

また対面練習では、制限ある厳しい状況の中で、先生方の熱意ある御指導に、高揚感を覚え奮起しました。そして本番の舞台でも、杉山先生の格調高い素晴らしいバリトンに後押しされ、団員の皆さんの結束力が美しいハーモニーとなって会場に響き渡った時、その場に立てた事に幸福感が込み上げました。

振り返ってみれば、定期練習が再開された頃から、基礎的なことは自宅練習でという思いでYouTube 配信のプログラムを活用しました。初めての曲に取り組む者にとっては、発音、音取りと細やかな指導を、繰り返し自宅で受けられたことは大変心強かったです。対面練習の折には会場でその都度録音に心がけ、自宅での練習の糧としました。

また初期のコロナ緊急事態宣言が発令後の混沌としていた頃、団から zoom でボイトレレッスン開講の案内がありました。少しでも発声練習ができるならと思い申し込んで見ると、通信ではありますが発声方法をマンツーマンで受けられる良さを体感しました。基本的発声方法を体得できる大切な時間となっています。嵐田先生には、いつも辛抱強くご指導を頂いてます。目指すところは程遠いのですが、継続することは得るものもあると実感しています。

このように団員に向けて色々と発信して下さったお陰で自宅練習の動機付けとなりました。閉鎖的な期間ではありましたが、ここまで導いて下さった全ての方々に感謝申し上げます。この日の感動を忘れず、これからも皆様と合唱ができる幸せに感謝しつつ、向上に努めたいと思います。

定期演奏会を終えて ―Selig を巡って―

T18 近藤 浩

坂本先生が教えてくださったとおり、ドイツ・レクイエムは、ブラームスがドイツ語訳の聖書から引用して作曲した曲です。モーツァルトなどのラテン語ミサ典礼文に依るレクイエムが、「主よ、永遠の安息を彼らに与えてください。」と死者に向き合って始まるのに対して、ドイツ・レクイエムは、生きている人々に向き合って、Selig、「幸いである。」との呼びかけから始まり Selig で終わります。坂本先生は Selig の語頭 S の有声子音の響きからご丁寧に教えてくださいましたが、Selig ということばを、ブラームスがこの曲の通奏低音として心に強く留めていたように感じます。

「悲しむ人々は、幸いである。その人たちは慰められる。」(マタイ 5.4)。これは、イエスがガリラヤ湖畔の山に登ってなされた山上の説教のみことばの一つです。当時のイスラエルの民衆は、ローマ帝国の支配下で、貧しく弾圧されて悲しみの中にいたのですが、イエスは、神が彼らに本当の慰めをもたらされることを語られたのです。この Leid、「悲しみ」ということばは、ギリシャ語では「ペントス」という、死者への悼みも含めた、悲しみの中でも最も強いことばです。ブラームスが、シューマンや母親の死の悲しみの中にあってドイツ・レクイエムを作曲したとの坂本先生のお話も心に留めながらこのみことばを思い巡らしますと、だれでも悲しいことは避けたいものですが、たとえ悲しみの中にあっても慰めを受ける恵みが与えられること、悲しむ人々に心を寄せることが望まれることがメッセージとして聞こえてきます。引き続き、このみことばも心に留めながら、第7楽章の結びの Selig まで歌っていければと思います。

そして、ほほえみも、古希のお祝いの曲が一転、ご逝去の上梓の曲集となったとのこと。Selig とあいまって、杉山先生の「笑顔で歌って」とのご指導も心に光を感じます。山上の説教のみことばを、日々の生活の中でも思い出していければと思います。

「キリエ・エレイソン」(2022年定期演奏会を終え)

T16 青柳 潔

つい最近のことのようでしたが、あれはコロナ禍の始まる前年「ヴェルディ・レクイエム(1874)」を歌わせて頂きました。「キリエ・エレイソン」という言葉に慄き、「怒りの日」の戦慄的旋律に追われた自分でしたが、同じラテン語の詞で「レクイエム」を作曲した人は百人も居るんだよ。と合唱団の有識者より教わり、宗教曲の深淵さを感じたものです。今回の「ドイツ・レクイエム(1869)」はドイツ語。ドイツ企業に長く在籍し上司も部下にもドイツ人が多数居た私に少しは意味がわかるはず。こちらの方が和声的にも歌いやすいんだよと識者が言うので期待しました。ところで、リヒャルト・ワーグナーとジュゼッペ・ヴェルディは同年生まれ(1813)というのです(映像を作曲者の年代順に整理して気づきました・それで同じように聞こえるのか)。一方、ブラームスはその二十年後の生まれ。それで音楽理論がちょっとだけ現代に近くてわかりやすいかと納得しましたが、実は「ドイツ・レクイエム」の成立年は五年ほど早い(残念・なかなかわからんクラシック)。以前も書きましたが、トナリティが多重で同主調の長調・短調が同時に存在し、瞬間的に半音上転調したり、関係調でない転調也多すぎます。勝手な希望を言えばジャズとかポップスみたいに、その都度調号を書いておいてくれたらずっとイイのに。しかし、何百年前の古典楽譜は作曲者本人が書いた通りにしておくのでしょうネ。それを不十分な知識で解説し、時には先生に解説して頂きますが。ピアノ譜から解説するのに線も音也多すぎて時間が足りないやら読みなれないやらで無残に外れてしまうのです。そんな苦しみもありますが、2022年10月の定演では「ほほえみ」のような心と耳に優しい素敵な曲集、トナリティが崩れない勇壮なオペラ曲とかも混ぜて頂いて、楽しく過ごさせて頂きました。十月の時点で「ドイツ・レクイエム」も六番まで進み、曲想もある程度はわかって、主催者側の作戦を成程と思いました。

定期演奏会を無事に終えて

A60 宇川 八千代

定期演奏会が終わって何よりホッとしています。心地よい疲労感を引きずりながら、熱心に指導して下さった先生方や裏方として全力で取り組んでくださった役員の皆様、各担当の皆様への感謝があふれています。ありがとうございました。

さて、3年近く前の『第九』コンサートの突然の中止は衝撃でした。次はゲネプロという段階で新しい解釈の第九が歌えないなんて！それ以来私の『歌う』時間はぷつぷつと無くなりました。コロナ禍におびえながら空白の時を過ごしました。練習再開のお知らせをいただいたときは、うれしさはもちろんですが歌えるかなという疑問と不安もありました。ただ『ドイツレクイエム』が歌いたい気持ちが強く、やれるところまでやってみようかと思いました。

練習再開後も度々一時中断がありましたが、コロナ対策も十分に考えられており、団員の皆様は粛々と再開を疑うことなく練習に参加されていましたので、私も不安なくついていくことができました。マスクをして演奏会を迎えるとは想像だにしていなかったのですが、

それゆえ定期演奏会は開催されると確信できたのできつい練習も淡々とこなせました。

今回のプログラムは3種類に分かれていました。それぞれに特徴はありますが、私はオペラの曲が初めてで最後の最後まで歌うのが難しかったです。『ナブッコ』の曲を坂本先生に解説していただいた後にやっとこの曲が好きになりました。演奏会では勢いで歌いました。個人練習はどうしても好きな曲、歌いやすい曲を先にしてしまうので、調子のよい日（めったにない）にはオペラの曲を、そのほかの日には30分くらいを目安にレクイエムとほほえみを歌うようにしました。

当日は『ほほえみ』が一番良かった、じんと来た、と夫が言いました。日本語がストレートに心に来ると。これは杉山先生に怒られ・懇願された『言葉』のご指導のたまものかと思っています。

最後に、コロナ禍の3年分のブランクは確実に体にきました。ゲネプロを頑張った疲れが演奏会当日までに取れなくて、のどの調子も100%とはいかない。2月の演奏会に向かって曲の練習とともに体力作りが欠かせません。

声を聴きあい、合わせて歌うことの幸せを感じて皆様に感謝申し上げます。

A61 松尾 真己子

今年4月に入団し、初めて演奏会に出させていただきました。入団当初は慣れないドイツ語イタリア語の譜割りがとても難しく、演奏会に出るなんて絶対無理！と諦めていました。しかし練習を重ねるにつれ、楽譜にマーカーを引いたり、練習を録音されたりと皆さんが努力工夫されている様子を知り、なるほど！と早速真似。毎回練習をスマホに録音し、先生のYouTubeと合わせて、家事の合間や電車の中で、とにかく聞いて聞いて聞いていました。慣れるしかない！です。とはいえ、ただでさえ仕事で練習に参加できない時があり、さらには8月は濃厚接触者となりお籠り状態。やっぱり演奏会なんて無理、とすっかり悲観的になってしまった時も。ところが久しぶりに恐る恐る練習に参加したところ、なんだか楽しく、歌えないけど皆さんの音の中に居るのがとっても心地良かったのです。他のパートを聴いて音を合わせる、という事がこんなに楽しいことなのかと改めて感動いたしました。

演奏会当日の舞台は練習の時より皆さんが近く、周りの方たちの声に導かれるように歌うことができ、とても楽しかったことを覚えています。普段絶対に着ないロングスカートやピンクレースのドレスや舞台照明にもテンションが上がりました。とにかく本番はあっという間でした。

終わってすぐに思ったのは「もう終わっちゃったの？もう一回歌いたい！」です。

皆さんと一緒にステージを作り上げることができて本当に嬉しかったです。ありがとうございます。「ほほえみ」は今や鼻歌の定番曲に。ほんの少しだけドイツ語にも慣れてきたかなあ…。

B27 富野 隆司

今回の定期演奏会は私にとって初舞台でした。

初心者私を出演させて頂いた先生方、役員をはじめとする団員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

5月末に入団したばかりで4ヶ月ちょっとしか経っていないので、定期演奏会にはまだ出演させてもらえないだろうと思ってました。8月にドイツレクイエム・オペラ・ほほえみの曲目毎に出演希望のアンケートがあったときには、お情けで1つくらいは出してもらえるかもしれないと思い、ダメ元で全部参加希望と書いて出しました。出演合格？の連絡がないので、団員の皆さんに聞いてみると希望者は全員出演出来ると聞き、嬉しいような、本当に自分にできるか不安な気持ちになりました。

9月初めの土日の特訓等、特別練習にもできるだけ参加したものの、ドイツレクイエムは特に難しく上手く歌えずに苦しんでいました。団員の皆さんに「ドイツレクイエムは素人が手を出してはいけない難曲の一つと言われている」と聞き、初心者私が上手に出来なくて当然と少し気が楽になりました。

坂本先生のYou Tubeを繰り返し聴いてリズム・音程などを必死に覚えましたが、声量・息の長さもまだまだで、音色をつけるのはさらに先のことになりそうです。

本番では「出だし」と「切り」のところだけでも合わせようと、先生の指揮を見ていたのですが、ドイツレクイエムの第二楽章で一か所フライングしてしてしまいました。この場を借りてお詫び致します。申し訳ありませんでした。

伸びしろだけは団員の皆さんの誰にも負けないと思います。少しでも団員の皆さんに追いつく事ができるよう努力しますのでどうか長い目で見守って下さい。まずは、2月の名曲コンサートに向け、精進したいと思います。

今回の定期演奏会のパンフ・CDは初舞台の記念として大事にとっておきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

初めての定期演奏会を終えて

B24 三留 修平

「歌ったー！！」。最後のアイダの「Della vittoria -----」を出そびれて、1段飛ばして追い付いたことを除けば、今の実力相応には歌えた。気持ちよかった。2019年9月に入団し、右も左もわからないままふれあいフェスタに出演させていただき、遠慮がちに歌って以来のステージで、コロナで3年間たまっていたマグマを噴出させることができた。

この間、折角鍛えた第九をそのままにしたいと、今年のサントリー1万人の第九で動画投稿に参加し、大阪城ホールに鑑賞しに出かけたりした。しかしそれは一部の活動で、ここに至ることができた最大の要因は、ありがたいことに坂本先生のYouTube視聴に始まり、2020年8月より先生からZOOMでの個人レッスン、1年後にはご自宅へ伺ってのレッスンと発展させていただけたことにある。もともと歌は好きだったが、所詮素人カラオケ歌唱の域

を出ていないのを、どのように合唱や声楽に適応させるのかと、ふれあいフェスタ以来ずっと考えていた。

図らずも、退職に備えて業務量を減らしつつあり、コロナ禍ならではの様々な要因が重なり、本格的レッスンを受け始めることができた。合唱団の全体活動が止まっている間に、多少ではあっても皆様とのギャップを埋めることができたことは、ラッキーの一言に尽きる。4月以来かなり時間もでき、合唱団としての練習に励みつつ初めて定演を迎えられたことは、大きな喜びとなり気持ちよく歌えた。

アイダは、客席に家族・友人を認めてふと心にスキができたのがいけなかった。何事も完全に終了するまで気を緩めてはいけないことを、改めて認識した。録音の編集時に確認すると、くだんの個所は少人数故、わずかにボリュームが小さいかと思えるものの力強く聞こえてきた。たとえ一人ひとりの貢献度は小さくとも、本気の声が重なり、全員の協力があって成り立っていることを痛感した。これが合唱だ、素晴らしい。また頑張るぞ、これからも続けていきたいと思った。

世田谷区民合唱団 ボランティア企画会報告

第200回 お楽しみコンサート 実施報告

2020年9月15日木曜日 13:40～14:40 休憩5分デイホーム弦巻要望により参加10名
指揮 S 添田 S 矢口、猪瀬、後藤 A 奥谷、樋口、高橋
T 青柳 B 篠田 ピアノ秋山

- 1部 奥谷司会で全員が担当の曲を紹介 ①花のまわりで ②おおシャンゼリゼ ③オペラ曲
④高原列車は行く 休憩

- 2部 観客と一緒に発声練習 ⑤みかんの花咲く丘 ⑥旅愁 ⑦母さんの歌 ⑧古時計
⑨青い山脈 ⑩今日のひととき

職員の方3名から感動したとの声を頂きました。



第201回 おたのしみコンサート 実施報告

2022年10月23日日曜日 14:00～15:00 休憩5分

損保ケアラビィーネ二子玉川 参加12名

指揮 S 添田 S 矢口、猪瀬、後藤、平田、A 奥谷、樋口、高橋 T 青柳 B 篠田、小林
ピアノ秋山

- 1部 奥谷司会 ①花のまわりで ②おおシャンゼリゼ ③オペレッタ ④オペラ
⑤ここに幸あり 休憩

2部 観客と一緒に発声練習 ⑥みかんの花咲く丘 ⑦旅愁 ⑧かあさんの歌
⑨古時計 ⑩青い山脈 ⑪今日のひととき



お楽しみコンサートの活動も始まりました。この紙面で皆様にご報告できることになり、これからの活動がさらに発展されますように願っております。

この号の最後に 196 回から 199 回のご報告を掲載致しましたので合わせてお読みください。コロナ禍で皆様にお読みいただけなかった活動の報告です。報告者は元団員 A 落合玲子さんです。前回号で退団年を 2020 年とお伝えしましたが、2021 年 11 月の退団でした。ここに訂正しお詫びを申し上げます。



編集後記

11 月を迎えるとさすがに朝晩の冷え込みが体に堪えます。

無事に定演を終えることができたことほっとしていたらあっという間に季節が変わっていました。これからの季節は日々気温が下がり、健康管理が大切ですね。コロナウイルスの脅威がまだある中、団員の皆様と毎週顔をあわせて練習できることが普通になってきました。そして何より今月から黒岩先生の御指導が始まります。更に楽曲の完成度を高めていきましょう。

皆様のご協力を頂き、Dialog160 号をお届けできるのはうれしいことです。これからも団の活動を身近にお伝えできるよう頑張りますので宜しくお願い致します。

11 月 2 日の練習日に素晴らしい朗報が坂本先生から発表されました。ピアニストの尾島先生が 11 月 3 日にご入籍されるといううれしいニュースでした。心よりお祝い申し上げます。どうぞ末永いお幸せを団員一同お祈り申し上げます。これからお力を頂けるとのこと素敵なピアノ伴奏で団をご指導ください。

記 柴田



第3クール「おたのしみコンサート」報告書

ボランティア企画会 落合玲子

第196回ねたきりゼロをめざすまちの会 21回目訪問 出演者23名

第197回ケア悠友の家 6回目訪問 出演者19名

第198回きたざわ苑 3回目訪問 出演者24名

第199回デイホーム赤堤 20回目訪問 出演者22名

5月から新元号令和になり、元年は真夏の猛暑・長雨・経験の無い猛烈台風等気候変動の激しい始まりでしたが、11月の大嘗祭を無事終え、穏やかな12月を迎えました。「おたのしみコンサート」活動は今年度も順調に活動でき、訪問施設数も久しぶりに11施設となりました。9月に定期演奏会、11月に有志団員による世田谷区姉妹都市オーストラリアバンバリー訪問、12月に依頼コンサートふれあいフェスタ参加と行事の続く中、第3クールは12月に4施設訪問を実行しました。第3クールは各施設とも出演者数が24人以下と少ない演奏会でしたが、ご依頼者様・利用者様から大変喜んでいただきました。ご出演の皆様有難うございました。

第196回 ねたきりゼロをめざすまちの会 報告書

令和元年12月3日(火)午後2時~3時10分

会場：深沢区民センターホール

おたのしみコンサート第3クールの最初は毎年ご依頼いただく「ねたきりゼロをめざすまちの会(以後「ねたゼロ」と記載)」様の忘年会でした。12月3日は前日の冷たい雨が上がり、青空の広がる暖かな1日



でした。ご用意いただいた深沢区民センター第3・第4会議室に初出演S大久保明子さんを含む23名が集合し、ピアノのある第2会議室で20分練習しました。午後2時から40名ほどの会員様が待たれるホールで演奏会を開始しました。

オープニングの「花のまわりで」に続き指揮：B 檜垣さん、ピアノ：秋山先生、代表挨拶：S 添田さんにそれぞれ「楽しく歌いましょう」とお話しいた

だきプログラムに戻りました。季節の歌「埴生の宿」「雪(ゆきやこんこ)」は「ねたゼロ」の会員様はその会の名の通りお元気な皆様の会ですので、ご一緒に大変大きなお声で歌って下さいました。東日本大震災だけでなく各地にもたらされた地震や台風等災害を受けられた皆様への励ましになればと今回も「永遠の花」を聞いていただきました。

ここで合唱団員は舞台を降り、ねたゼロ会有志の皆様は舞台に乗っていただき「里の秋」「われら人生70から」を会場の皆様と合唱団員も一緒に歌い、恒例の「今日はよい日だ」を大きな輪になり全員で2回歌いました。次は今回初めてのプログラム、S 高橋治世さんに手品を見せていただきました。

カラのバッグから花の入った箱が次々出たり、黒いレコード盤が赤・白・青色に変わったりする鮮やかな手元に皆様の「まあ、不思議、すごい！」と大きな拍手をいただきました。次に優雅なドレス姿のA 樋口さんが「ハバネラ(カルメンより)」を豊かな美声でお客様の紳士に歌いかけ、会場は笑顔いっぱいになりました。



クリスマスも近いので「聖夜」を会場の皆様と歌いながら団員はステージに戻り「高原列車は行く」「上



を向いて歩こう」を合唱しました。「上を向いて・・・」ではS矢口晴美さんがオブリガートを歌いました。最後の曲「ふるさと」は合唱の後ねたゼロさん4人に故郷を伺いました。「京都・茨木・新潟・栃木」と様々でした。全員で「ふるさと」を斉唱し、最後にもう一度手をつないで輪になり「今日はよい日だ」を歌い「今日のひととき」で演奏会を終了しました。「ねたゼロ」会員のA小池さんが来場応援して下さいました。有難うございます。

今回で21回目の演奏会となるねたゼロ様は「おたのしみコンサート」を毎年忘年会としてご依頼いただき、おたコンは大きなホールで充実した演奏会を開催させていただいています。「今日はよい日だ」はねたゼロ様からご紹介いただき、合唱団で振りをつけました。打ち上げは近くのファミレスに9人参加でした。

ねたきりゼロをめざすまちの会様の広報誌に感謝の記事が掲載されています。(提供 A 小池絹子)

世田谷区民合唱団の合唱コンサートを楽しみました

去る12月3日のけやき会(体操会)の後、恒例の世田谷区民合唱団による合唱コンサートを楽しみました。

合唱だけでなく、団員メンバーによる手品や独唱も聞かせていただきました。参加皆様の「里の秋」の合唱も元気に歌えて楽しめたと思います。

毎年、私たちのためにコンサートを開いていただき大変感謝しております。

第197回 ケア悠友の家 報告書

令和元年12月6日(金)午後2時~3時15分(休憩10分)

冬空の薄曇りで気温が低い一日でした。ケア悠友の家様への入館は午後1時過ぎの為、時間前に到着した数人の出演団員には外で待機していただき、1時になって入館しました。2階の控室は数人の利用者様が休んでいらっしゃいますので、利用者様が1階会場に降りられるまでご用意いただいた茶菓をいただきながら静かにすごし、1時40分から10分間ほど音出しをして1階会場に入りました。今回の出演者は19名でした。30名ほどの利用者様は演奏会の始まる直前まで「おたのしみコンサート」でしっかり歌えるようにと、歌を練習されていらっしゃいました。

「花のまわりで」で始まり、出演者代表として指揮B 檜垣さんが九品仏の紅葉、ピアノ秋山先生が豪徳寺の紅葉の様子を挨拶に話し、合唱団代表として副委員長S 添田さんは「今日の出演者は利用者様とも年齢は似ていますが歌っていますので元気です。一緒に歌いましょう。」と挨拶されました。季節の歌「里の秋」「埴生の宿」「雪」を皆様と歌い、復興支援の歌「永遠の花」をお聞きいただき、テーマソング「今日はよい日だ」では手を取り合って練習しました。「肩たたき」で笑顔が溢れました。ここで10分休憩しました。後半はS 菊地順子さんのソロで透き通るソプラノ「アベマリア：マスカニー」に聞きほれ、T 藤原さんのリードでT 青柳・B 檜垣・B 井本さんのクアルテット「もしもピアノが弾けたなら」を楽しんでいただきました。クリスマスソング「聖夜」を全員で歌いながら合唱団はステージに集合しました。



「高原列車は行く」はコンサート前に利用者様が練習されていた曲ですので、大きな声で歌っていただき



ました。中村八大・永六輔・坂本九の曲名を「上を向いて歩こう」と利用者様に当てていただき2番まで、「ふるさと」は利用者様4人の故郷をお伺いして3番まで一緒に歌い、最後にもう一度「今日はよい日だ」を歌いました。お元気な利用者様が沢山前に出て輪を作って歌いました。「今日のひと時」で終りの挨拶をしますと、大きなアンコールの声をいただき「高原列車は行く」1番を全員で歌い閉会しました。打ち上げは5名でした。

毎回大歓迎で迎えていただくこちらの施設様では職員の皆様に今回もステージセッティングや茶菓ご用意等ご協力を有難うございます。今回は出演協力団員数が少なかったのですが、「おたコン」は変わらず明るい歌声をお届けできました。皆様有難うございました。

第198回 きたざわ苑 報告書

令和元年12月13日（金）午後1時50分～3時5分

今年の12月は気温も高く晴天の日が多いのですが、この日は師走の寒い日になりました。きたざわ苑様は3回目の訪問です。男女別に用意していただいた控室に団員24名が集合し、演奏会場になる地域交流室で20分音出しをしました。A石川さん・B篠田さんはお住まいが近いということで「きたざわ苑」には今回も出演です。利用者様約30名の着席を待つて、予定より少し遅れて「おたのしみコンサート」を開演しました。



オープニング曲「花のまわりで」に続き指揮B檜垣さん・ピアノ秋山先生の挨拶があり、久しぶりに参加のB神保運営委員長が代表挨拶をしました。「里の秋」「埴生の宿」「雪」を大変元気に歌っていただき、



地震・水害など被災された方々の力になれるよう「永遠の花」を聞いていただきました。皆で手をつなぐ「今日はよい日だ」は、歌に興味を示さなかった利用者様に団員が手を差し出しますとさっと手をつなぐ場面があちこちにあり大変楽しく練習しました。今回のソロ「ハバネラ」ではA樋口さんが男性利用者様に歌いかけ皆様歌にこたえて下さいました。男声クアルテット「ジイジイズ」はT藤原さんがメンバー紹介し、「私は船舶免許を取りました。」と「佐渡のたらい舟免許」を掲げ、場内

を笑顔にしました。曲は「もしもピアノが弾けたなら」でした。ここで利用者様の水分補給タイムがあり、5分ほど休憩しました。

後半はB藤原さんの鳴らす鈴の音色と共にクリスマスソング「聖夜」を皆様と歌いながら整列し、「高原列車は行く」「上を向いて歩こう（S菊地さんのオブリガード付き）」、コンサート最後の歌「ふるさと」を合唱・斉唱しました。恒例の利用者様に伺う故郷は「栃木・函館・広島」ととりどりででした。プログラムを終了しますと「今日はよい日だ」のアンコールをいただき、お元気な利用者様は立って手を繋ぎ輪を作り、笑顔いっぱいの「今日はよい日だ」を歌うことが出来ました。打ち上げは笹塚駅近くのファミレスに6人参加でした。

早い時間から集合する団員のご案内や演奏会場への椅子セッティングなど職員の皆様には大変お世話様になりました。お住まいが「きたざわ苑」に近いA高尾さんの応援来場を有難うございます。

第 199 回 デイホーム赤堤 報告書

令和元年 12 月 19 日 (木) 午後 1 時 40 分～3 時 (休憩 10 分)

今年度・令和元年最後の「おたのしみコンサート」は今回が 20 回目の訪問になる「デイホーム赤堤」様です。街は 12 月も半ばを過ぎクリスマスと歳末の賑わいですが、演奏会当日は朝から小雨のぱらつく冬空の一日でした。男女別に控室をご用意いただき、出演者 22 名はキーボードのある男声控室で 20 分練習し、会場いっぱいの利用者様 (約 40 人) に大きな拍手で迎えられました。



第 1 曲目「花のまわりで」に続き指揮檜垣さん、ピアノ秋山先生の挨拶、代表として元委員長 S 鮎川さんが 20 回目のご依頼に感謝の挨拶をされました。季節の歌「里の秋」「埴生の宿」に続き「雪」を《雪やこんこん》ではなく《雪やこんこ》と歌



っていただきました。東日本大震災を悼んで英国人ジョン・ラーター氏作詞作曲「永遠の花」を聞いていただき、テーマソング「今日はよい日だ」は利用者様が多いため出演団員は工夫して皆様と手を取り合い歌い、大変にぎやかな時間でした。「肩たたき」も笑顔いっぱい歌っていただきました。ここで 10 分ほど水分補給の休憩をしました。

後半は S 猪瀬さんが「ウィーンわが夢の街」を S 菊地・T 藤原・B 檜垣さんのコーラスと共に歌い「おたコン」ソロデビューをされました。続く男声クアルテット「ジイジイズ」は「もしもピアノが弾けたなら」を T 藤原さんのリードで T 青柳・B 檜垣・B 井本さんが歌いました。T 藤原さんの鳴らす鈴の音と共に利用者様と「聖夜」を歌いながら団員が整列し、合唱に戻りました。「高原列車は行く」は藤原さんが吹く汽笛が蒸気機関車のイメージを盛り上げ好評でした。利用者様が歌詞にあわせて「はんけち」を振り「花束」を投げる動きをされ、楽しめる様子が伝わってきました。皆様ご存知の「上を向いて歩こう」はオブリガードを赤堤在住の S 矢口さんが歌いました。プログラム最後の歌「ふるさと」は大合唱でした。最後にもう一度「今日はよい日だ」を全員で歌い、別れを惜しみながら「今日のひと時」を歌い、手を振って終了しました。今期最後の「おたコン」の打ち上げは経堂駅近くの中中華レストランに 15 名が参加しました。施設様から控室用意、キーボードの設置、お茶のサービスなどお世話様になりました。

来年度も充実した演奏会を楽しみましょう。

◎プログラム ○印：皆様と歌います

- 1、花のまわりで ②、里の秋 ③、埴生の宿 ④、雪 5、永遠の花 ⑥、今日はよい日だ
- ⑦、肩たたき
- 8、ソロ「ハバネラ」「アヴェマリア」「ウィーンわが夢の街」・クアルテット「もしもピアノが弾けたなら」
- ⑨、聖夜 ⑩、高原列車は行く ⑪、上を向いて歩こう ⑫、ふるさと 13、今日のひととき
- ※ ねたゼロ様：里の秋・われら人生 70 から

◎出演者 32 名 (4 回合計 88 名) 4：クアルテット

特別出演 秋山先生ピアノ

S、 鮎川代表 猪瀬ソロ 大久保初出演 菊地順子 木幡 菅原 添田代表 高橋手品 田中 林
三角 矢口晴美 鈴木幸子

A、 五十嵐 石川 岡本 奥谷 落合企画・進行 豊島 樋口 布施 森企画

T、 青柳 4 石川 藤原 4

B、 井本 4 斎藤 篠田 神保代表 檜垣指揮・4 溝口企画

.

